



生き残るための出版 マネージメントとは？

ジャーナリスト秦隆司が作り手側から見た出版の世界を描くノンフィクション

“今の出版は「完全に死んでいる」とデジタルによる出版の変革を論考した『マニフェスト 本の未来』で語ったJ・オクス。ニューヨークで彼は友人と出版社ORブックスを経営している。秦はORブックスの実態、アメリカの新聞や出版の歴史を例に、出版社が生き残るための鍵を解き明かす。

秦隆司

ベストセラーはもういない

ニューヨーク生まれ 返本ゼロの出版社

メディア掲載実績

日本経済新聞1面に掲載！

2019年6月8日号の1面特集『Neo economy』でこの本の取材対象となったORブックスのジョン・オクスが紹介されました！デジタル出版の新しい経済価値として、ORブックスの取り組みが紹介されています。

その他のメディア掲載記事

『出版人・広告人』（2019年4月号）／毎日新聞（2019年3月24日号）／『Pen』（2019年4月1日号）／『週刊金曜日』（2019年3月1日号）／文化通信（2019年2月18日号）／図書新聞（2019年2月9日号）

米・ニューヨーク、チェルシー地区の出版社「ORブックス」の社長はたつたさ。デスクの上には本は見当たらず、経営者のジョン・オクス氏（57）は電子書籍を直販する自社のウェブサイトに熱心に見入る。書店で本を売らないため、サ

イトのデザインが生命線だ。売れ行きが鈍れば社員の一人であるイトの現地エンジニアに連絡し、文字や画像の見直しを指示。コスト4分の1に製作コストが紙の本の4分の1で済むが、販路イタの分析などに注力する。国民がかつて働いた大手出版では書店から大量の売れ残りを返本されるのが常だった。電子書籍に返本の概念はなく、販売手数料で収支が合う。リストアップを

出版不況でも返本ゼロ

成長へ

日本経済新聞（2019年6月8日号）

目次〈抜粋〉

- アメリカの出版システム
- 100年前のフェイクニュース
- パブリッシング・インスティテュート
- バーニー・ロセット
- 出版人アルフレッド・クノッフとの戦い
- 直接販売の勝利
- 書店のビジネスモデル
- ORブックスの組織
- 返本ゼロのビジネスモデル
- メディアと読者へのアプローチ



ビデオでわかる
“今の出版は「完全に死んでいる」”(17分)
<https://youtu.be/epAo3AoBhd0>



ビデオでわかる
返本ゼロのORブックス(4分)
<https://youtu.be/elndndM8BWSI>

発売日:2018年12月18日
発行元:株式会社ボイジャー

ご注文はツバメ出版流通まで FAX.03-3721-1922

<http://tsubamebook.com> / TEL.03-6715-6121 / info@tsubamebook.com

貴店名(番線印)	新刊 ボイジャー http://www.voyager.co.jp/ 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通：川人
ご担当： 様	<h2>ベストセラーはもういない</h2> <p>ニューヨーク生まれ 返本ゼロの出版社 著者：秦隆司</p> <p>本体 2,500円+税 (2,700円) / 四六判並製・216頁 / ISBN978-4-86239-850-5 C0036</p>